

出荷伝票システム刷新

集配指示、スマホに集約

総合化学メーカー物流の元請けであるサンネット物流（下村功社長、千葉県市原市）は、ドライバーの負担軽減と協力会社の配車事務の効率化を目的に新たな出荷伝票管理クラウドシステム「S-eyes Next（エスアイズ・ネクスト）」を10月に立ち上げた。伝票の発行作業を簡素化したつつ、ドライバーへの集配指示を伝票に印刷したQRコードとスマートフォンに集約。運行指示のデジタル化で作業効率向上を図った。物流DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進で「2024年問題」を乗り切ろうとしている。（佐々木健）

サンネット物流

拘束1時間以上削減

従来のドットプリンターで打ち出す複写式伝票からレーザープリンターを使う通常のコピー用紙に変更し、A3用紙2枚に集約した。納品伝票などの確認帳

票を複写式から変更しただけに見えるが、新伝票には集配指示用のQRコードを印刷している。

QRコードをスマホで読み取ると、出荷先や届け先の住所と地図とともに、荷役場所の庭先地図のほか、作業時の注意点などの情報を表示する。更に、スマホに内蔵されたGPS（全地球測位システム）情報を利

用し、車幅と車高、大型車両の通行規制を考慮した運行経路で積み地や下ろし地までナビゲーションする機能を持つ。

市原市周辺の化学品倉庫は小規模なため分散して保管することが多く、協力会社は運行前にサンネット物流に立ち寄り、集配場所の指示を受ける必要があった。複数拠点で集荷することだけでなく、届け先の庭先情報や作業注意点は機密性の高い情報であり、外部に出せないといった問題もある。新システムではQRコードによる情報提供で、これらの制約を乗り越え

た。サンネット物流の調査によると、各社のドライバーは乗務前点呼後に即、集荷に向かえるようになり、拘束時間が1時間以上削減できた。スマホ表示に使うQRコードは荷物の納品翌日に無効化される仕組みで、高い情報安全性も実現している。

エスアイズ・ネクストは協力会社の事務作業の負担軽減でも効果がある。今までの出荷伝票は、サンネット物流の基幹システム（ERP）からデータを得ていた。ERPは荷主の受発注システムと連携しているため、接続には情報漏洩の多いVPN（仮想私設網）回線が必須となる。伝票を打

ち出すのに、秘匿性の高い環境をサンネット物流の構外に用意できず、協力会社は毎日、伝票受け取りでサンネット物流に立ち寄りなくてはならなかった。こうした課題を解決するため、ERPにつながるクラウドシステムとしてエスアイズ・ネクストを構築した。これにより、協力会社はセキュリティを確保した形で出荷データを得られるようになった。

下村社長は「DXによりドライバーの負担を軽減できた。将来的には労働力確保につながるシステムにしたい。4月から試験運用を始めて10月から運用を開始した。今後は機能を拡張し、24年問題解決の糸口にした」と話している。

伝票のQRコードを読み取ると、運行指示やナビ情報がスマホに表示される

